

地域公共交通計画（別紙）（案）における生産性向上の取組
新松田駅～第一生命・西大友～小田原駅（富士急モビリティ株式会社）

1 これまでの改善等に向けた取組

当該系統は、地域住民の通勤、通学、通院や買い物等の生活交通として利用されており、必要な路線である。
これまでも利用促進に向け次の取組を実施している。

- ・広域バスマップの作成・配付（小田原市、大井町、松田町、山北町他）
- ・バスの乗り方教室の実施（事業者、小田原市）
- ・町内を運行するバス時刻表を町の広報誌に掲載し、利用促進を図る（大井町）

2 今後の取組

- ・利用促進の実施（富士急モビリティ、小田原市、大井町、松田町、山北町）
- ・広域バスマップの作成・配付（小田原市、大井町、松田町、山北町他）
- ・地球環境や利用者にやさしいEVバス導入による利用促進（富士急モビリティ）
- ・バスの乗り方教室の実施（事業者、小田原市）
- ・大井町公共交通マップの作成・配布（大井町、交通事業者）
- ・おでかけモデルプランの作成・配架（大井町）
- ・路線バスのバリアフリー化の推進（松田町）
- ・快適なバス待合空間の整備（松田町）
- ・交通弱者へのバス定期券等の助成（松田町）
- ・バスロケーションシステムの導入による利便性の向上（富士急モビリティ）
- ・公共交通不便地域における移動支援策「おだチケ」実証事業の実施（小田原市）

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R9
運行回数(回/日)	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6
路線キロ程(km)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
年間実車走行キロ(km) ※R9は年間計画実車走行キロ(km)	72,153.3	72,153.3	71,976.8	72,053.7	72,158.3	72,515.9
経常費用 A(千円) ※R9は見込額	26,241	24,528	26,880	34,234	34,971	34,290
経常収益 B(千円) ※R9は見込額	24,270	22,527	20,546	25,749	26,676	24,474
収支率 B÷A(%) ※R9は目標収支率 下記(2)参照	92.49	91.84	76.44	75.21	76.28	77.28
年間輸送人員 D(人) ※R9は目標年間輸送人員 下記(1)参照	63,611	63,750	70,546	78,810	79,973	83,000

(1) 目標年間輸送人員

- ①運行回数1回当たりの利用者を1人増やす

→1人×7.6回×365日=2,774人

- ②基準値

直近3年間（R5～R7）の年間輸送人員の平均値、またはR7の年間輸送人員と比較し高いものとする。

→76,443人（R5～R7平均）＜79,973人（R7年間輸送人員）

- ③R9目標年間輸送人員設定（①＋②）

→2,774人＋79,973人＝82,747人

→百の単位を四捨五入、83,000人を目標値とする。

- ・設定理由

利用者、住民に分かりやすい目標とするため「運行回数1回当たりの利用者を増やす」という設定にした。

(2) 目標収支率

- ①年間事業収支率を1%改善する

- ②基準値

直近3年間（R5～R7）の収支率の平均値またはR7収支率のいずれか大きいほうとする。

→75.97%（R5～R7平均）＜76.28%（R7収支率）

- ③R9目標収支率設定（①＋②）

→76.28%＋1%＝77.28%

- ・設定理由

収支率が改善していくことにより、将来的に補助金額の圧縮が期待できることから目標収支率を設定した。

(参考 補助金交付実績額の内訳

単位:千円)

年度	R3	R4	R5	R6	R7
国	876.4	911.0	757.2	590.3	3,259.0

地域公共交通計画（別紙）（案）における生産性向上の取組
新松田駅～下曽我～小田原駅（富士急モビリティ株式会社）

1 これまでの改善等に向けた取組

当該系統は、地域住民の通勤、通学、通院や買い物等の生活交通として利用されており、必要な路線である。
これまでも利用促進に向け次の取組を実施している。

- ・広域バスマップの作成・配付（小田原市、大井町、松田町、山北町他）
- ・バスの乗り方教室の実施（事業者、小田原市）
- ・町内を運行するバス時刻表を町の広報誌に掲載し、利用促進を図る（大井町）

2 今後の取組

- ・利用促進の実施（富士急モビリティ、小田原市、大井町、松田町、山北町）
- ・広域バスマップの作成・配付（小田原市、大井町、松田町、山北町他）
- ・地球環境や利用者しやすいEVバス導入による利用促進（富士急モビリティ）
- ・バスの乗り方教室の実施（事業者、小田原市）
- ・大井町公共交通マップの作成・配布（大井町、交通事業者）
- ・おでかけモデルプランの作成・配架（大井町）
- ・路線バスのバリアフリー化の推進（松田町）
- ・快適なバス待合空間の整備（松田町）
- ・交通弱者へのバス定期券等の助成（松田町）
- ・バスロケーションシステムの導入による利便性の向上（富士急モビリティ）
- ・公共交通不便地域における移動支援策「おだチケ」実証事業の実施（小田原市）

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R9
運行回数(回/日)	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6
路線キロ程(km)	16.2	16.2	16.2	16.2	16.2	16.2
年間実車走行キロ(km) ※R9は年間計画実車走行キロ(km)	67,254.5	67,254.5	67,253.5	67,302.0	67,172.0	67,662.0
経常費用 A(千円) ※R9は見込額	24,459	22,862	25,116	31,977	32,554	31,995
経常収益 B(千円) ※R9は見込額	18,059	15,206	15,155	16,902	19,489	17,289
収支率 B÷A(%) ※R9は目標収支率 下記(2)参照	73.83	66.51	60.34	52.86	59.87	60.87
年間輸送人員 D(人) ※R9は目標年間輸送人員 下記(1)参照	41,355	45,249	52,305	59,130	56,683	59,000

(1) 目標年間輸送人員

- ①運行回数1回当たりの利用者を1人増やす

→1人×5.6回×365日=2,044人

- ②基準値

直近3年間（R5～R7）の年間輸送人員の平均値、またはR7の年間輸送人員と比較し高いものとする。

→56,039人（R5～R7平均）<56,683人（R7年間輸送人員）

- ③R9目標年間輸送人員設定（①+②）

→2,044人+56,683人=58,727人

→百の単位を四捨五入、59,000人を目標値とする。

- ・設定理由

利用者、住民に分かりやすい目標とするため「運行回数1回当たりの利用者を増やす」という設定にした。

(2) 目標収支率

- ①年間事業収支率を1%改善する

- ②基準値

直近3年間（R5～R7）の収支率の平均値またはR7収支率のいずれか大きいほうとする。

→57.68%（R5～R7平均）<59.87%（R7収支率）

- ③R9目標収支率設定（①+②）

→59.87%+1%=60.87%

- ・設定理由

収支率が改善していくことにより、将来的に補助金額の圧縮が期待できることから目標収支率を設定した。

(参考) 補助金交付実績額の内訳

単位:千円)

年度	R3	R4	R5	R6	R7
国	2,178.0	1,685.5	1,870.5	2,217.6	3,271.7